

2021年 3月20日(土)	11:00 - 特別① 香港クライシス 『中大防衛戦』 『STAND WITH HK』	13:40 - 長編① 『なれのはて』 ※2020年 長編部門観客賞 長編部門グランプリ	16:20 - 特集① 『カナルタ 螺旋状の夢』	19:00 - 特集② ヴィジュアル・ フォークロアの世界 『デウォキ〜神に捧げられた女たち〜』 『脱経浄瑠璃 三代目・若松若太夫 一声二節のわざ』
	3月21日(日)	11:00 - 長編② 『東京オリンピック2017 都営霞ヶ丘アパート』 ※2020年 特別賞	13:40 - 短編① 『当事者たち』の告白 『あなたの瞳に話せたら』 ※2020年 短編部門観客賞 短編部門準グランプリ 『I Am Here ー私たちがともに生きているー』 ※2020年 短編部門グランプリ	16:20 - 長編③ 『焼け跡ダイアリー 〜ツインカレンダー 双子暦記〜』 ※2020年 長編部門準グランプリ
3月22日(月)	11:00 - 特集③ 『カムイチェブ サケ漁と先住権』	13:40 - 特集④ 人類学者たちのフィールド 『アッパ・オリの一日』 『プティー ジャライ族の墓放棄祭』	16:20 - 特集⑤ ゾミアの秘祭 『ナガのドラム』 『アルナチャール人類博覧会』	
3月23日(火)	11:00 - 短編③ 原子力と人間 『被爆死した米兵を追って』 『我が友・原子力〜放射能の世紀』	13:40 - 長編② 『東京オリンピック2017 都営霞ヶ丘アパート』 ※2020年 特別賞	16:20 - 長編④ 『パンデモニウム DieAter2』	
3月24日(水)	11:00 - 特集① 『カナルタ 螺旋状の夢』	13:40 - 短編④ 自然との共生 『多摩川の野良猫写真家』 『私たちの山』 『THE LIMIT』 『セーブ・ザ・リーフ〜行動するとき〜』	16:20 - 短編⑤ カメラは踊る 『時と場の彫刻』 『メランコリア』 ※2020年 特別表彰 『大野一雄三部作 光への四つの道』	
3月25日(木)	11:00 - 長編⑤ 『傍観者あるいは偶然のテロリスト』	13:40 - 特別② 『南京 引き裂かれた記憶』 関西スペシャル	16:20 - 長編⑥ 『大月語』	
3月26日(金)	11:00 - 短編① 『当事者たち』の告白 『あなたの瞳に話せたら』 ※2020年 短編部門観客賞 短編部門準グランプリ 『I Am Here ー私たちがともに生きているー』 ※2020年 短編部門グランプリ	13:40 - 特別① 香港クライシス 『中大防衛戦』 『STAND WITH HK』	16:20 - 長編① 『なれのはて』 ※2020年 長編部門観客賞 長編部門グランプリ	

各回、監督による舞台あいさつあり。決定次第、映画祭のサイトやSNSで発表します。詳細は公式サイトをご覧ください。

一般 1300円 / シニア 1100円 / 学生 1000円
小学生以下 700円 / 会員 1000円
★3回券 = 3,300円
前売あり。開催期間中にも劇場窓口にて販売します。
劇場指定の割引・サービスデーは適用なし。
詳細⇒ <http://www.theater-seven.com/service.html>

公式HP: tdff-neoneo.com
twitter: @TDFE_neoneo
Instagram: [tdff.neoneo](https://www.instagram.com/tdff.neoneo/)
Facebook: <https://www.facebook.com/tdff.neoneo/>
主催: neoneo 編集室
お問い合わせメール: tdff.neoneo@gmail.com

映画祭運営: 金子遊 佐藤寛朗 若林良 吉田悠樹彦 澤山恵次 中村陽奈
メインヴィジュアルデザイン: 高野尚 WEBデザイン: 古谷里美 デザイン: 菊井崇史

大阪市淀川区十三本町 1-7-27 サンボードシティ 5階
シアターセブン TEL:06-4862-7733
阪急十三駅西口から西へ徒歩5分

●各回定員入れ替え制●上映開始後のご入場は、お断りさせて頂く場合がございます●満席の場合は入場をお断りさせて頂く場合がございます●作品により画像、音声必ずしも良好でない場合がございます。あらかじめご了承ください。

東京ドキュメンタリー映画祭 2021 新宿ケイズシネマにて今冬開催!



TOKYO DOCUMENTARY FILM FESTIVAL 2020 TOKYO DOCUMENTARY FILM FESTIVAL 2020

西 北

東京ドキュメンタリー映画祭

in OSAKA

3.20 sat - 3.26 fri
シアターセブン

東京ドキュメンタリー映画祭

みなで選ぶ「大阪観客賞」も開催

東京で話題になったプログラムをセレクト上映

激動の時代に対峙する
ドキュメンタリーが集結!

南 東

TOKYO DOCUMENTARY FILM FESTIVAL 2020 TOKYO DOCUMENTARY FILM FESTIVAL 2020

新型コロナの影響で劇場が閉まり、映画祭の開催も危ぶまれましたが、3年目にして過去最高150本以上の応募がありました。上映作品は、戦争、オリンピック、原発事故、先住民の権利、摂食障害などテーマが多岐にわたります。撮影方法もセルフ・ドキュメンタリーからダイレクト・シネマまで様々です。特別上映では香港における民主主義の危機を、特集上映では東南アジア、南米、アフリカなどの民族誌映像を取りあげます。パンデミックによる経験したことのない激動の時代に、多様なドキュメンタリーが撮り続けられていて、映画館で上映できること自体が喜びです。昨年12月の東京での映画祭で受賞した作品、話題になった作品をセレクト上映します。ぜひ新作の数々をご覧ください。

金子 遊・佐藤寛朗（「東京ドキュメンタリー映画祭」プログラム・ディレクター）

お客様の投票で受賞が決まる「大阪観客賞」を実施します！

- ① 『なれのはて』3月20日13:40～/3月26日16:20～
- ② 『東京オリンピック2017 都営霞ヶ丘アパート』3月21日11:00～/3月23日13:40～
- ③ 『焼け跡ダイアリー ツインカレンダー 双子暦記～』3月21日16:20～
- ④ 『パンデモニウム DieAter2』3月23日16:20～
- ⑤ 『傍観者あるいは偶然のテロリスト』3月25日11:00～
- ⑥ 『大月語』3月25日16:20～



監督=酒田公望 / 2020年 / 78分

- ① “当事者たち”の告白 3月21日13:40～/3月26日11:00～
- ② 日本発ダイレクトシネマ 3月21日19:00～
- ③ 原子力と人間 3月23日11:00～
- ④ 自然との共生 3月24日13:40～
- ⑤ カメラは踊る 3月24日16:20～



あなたの瞳に話せたら 監督=佐藤のみ / 2020年 / 29分
I Am Here—私たちはともに生きている— 監督=浅沼智也 / 2020年 / 60分

四国西端で移ろう四季の風景や刻々と変わる海の表情に、言い伝えや祭礼、開拓民の歴史や越境する若者を重ね、さらには、ダンサーや音楽家を近未来から招き、言葉にならない土地の「語(り)」を探す。ウイルスにより人と人との繋がりが危機にさらされる今だが、この土地はそうした流れから捨て置かれたのではないか。そのようにも感じられる大月町の「地底から遠未来」を、無作為にダイブするタイムマシンの感覚で捉えていく映像詩的作品。

ドキュメンタリーに特有の「当事者だから撮れる映像」。その意味と力が考えられるプログラム。石巻市立大川小学校の津波被害で妹を亡くした監督が、生き残った同級生と共に「手紙」を用いてメッセージを伝える『あなたの瞳に話せたら』と、性同一性障害者が性別を変更できる「GID 特例法」の施行後も、その要件を満たせずに苦しむ当事者の想いを、監督自身の体験を交えて描いた『I Am Here—私たちはともに生きている—』の2本を上映。



伊 監督=荒木悠 / 2019年 / 16分
有酸素ナンバ 監督=トモトシ / 2019年 / 31分
想像 監督=太田信吾 / 2020年 / 54分

釘路の老舗江戸焼き屋で、具材が焼かれる過程と焼き手の所作を緻密に描いた荒木悠の『焔』。いわゆる「ナンバ」を“技術的に高度なコミュニケーション”と再定義し実践することで、都市と人間、都市における人間同士の関係性を問い直すトモトシの『有酸素ナンバ』。チェルフィッチュ岡田利規の代表作「三月の5日間」の再上演の過程にカメラが密着する太田信吾の『想像』。日本のダイレクトシネマは、令和の時代に何を見つめる!?



被爆死した米兵を追って 監督=谷井健吾 / 2020年 / 26分
我が友、原子力-放射能の世紀 監督=渡辺謙一 / 2020年 / 57分

原子力を“放射能により人体に有害な影響を及ぼすもの”として、被害の実相に切り込んだ2作。『被爆死した米兵を追って』では、被爆当事者の調査でその存在が明らかになった、原爆で犠牲となった捕虜米兵の物語を追う。劇場初公開の『我が友・原子力』は、『天皇と軍隊』の渡辺監督が、戦後、平和利用と被曝被害の狭間で揺れてきた原子力の歴史を“放射能”を切り口に再構成し、人類にとって「核とは何か」を改めて問いかける。



多摩川の野良猫写真家 監督=長谷真帆 / 2020年 / 11分
私たちの山 監督=橋天守 / 2020年 / 21分
THE LIMIT 監督=今津秀邦 / 2020年 / 20分
セーフ・ザ・リーフー行動するとき〜 監督=島崎章主也 / 2020年 / 50分

多摩川の河川敷で、捨てられた野良猫の実態を伝えるカメラマン・小西修に密着した『多摩川の野良猫写真家』。三重県と北海道で今なお息づく猟師の生活を民俗学的に考察した『私たちの山』。観光開発が進む知床で、ヒグマと人間の生活境界線が近づく危機を描く『THE LIMIT』。サンゴの白化による死滅の危機を食い止めるべく行動する人々を描いた『セーフ・ザ・リーフー〜行動するとき〜』。人間にとって、自然と共生することは何か!?



時と場の彫刻 監督=歌川達人 / 2020年 / 8分
メランコリア 監督=松本健一 / 2020年 / 5分
大野一雄三部作 光への四つの道 監督=ウィルジニーマーシャン / 2020年 / 69分

プノンペンを拠点に活動するカンボジア系アメリカ人ダンサー、プラムソダム・オックに歌川達人が向き合う『時と場の彫刻』。フランス在住の舞踏家/映画作家・岩名雅記が長年撮りためた素材を用い、ドキュメンタリーとフィクションの「あわい」に迫る『メランコリア』。さらにはジョナス・メカス追悼として、映像作家・ダンサーのV・マーシャンが100歳の大野一雄と踊り、本人とさらにメカスが撮影した奇跡の作品を上映。

- ① カナルタ —螺旋状の夢— 3月20日16:20～/3月24日11:00～
- ② ヴィジュアル・フォークロアの世界 3月20日19:00～
- ③ カムイチェブ サケ漁と先住権 3月22日11:00～
- ④ 人類学者たちのフィールド 3月22日13:40～
- ⑤ ゾミアの秘祭 3月22日16:20～

特集 映像の民族誌



「デヴォキ〜神に捧げられた女たち〜」 監督=弘理子 / 2019年 / 76分
「説経浄瑠璃 三代目・若松若太夫 一声二節のわざ」 監督=遠藤協 / 2020年 / 17分



監督=藤野知明 / 2020年 / 93分



「アッパ・オリの一日」 監督=松村圭一郎 / 2020年 / 36分
「フイー・ジャライ族の墓放楽祭」 監督=柳沢英輔、ウィンチエンツォ・デッラ・ラッパ / 2014年 / 47分



ナガのドラム 監督=井口寛 / 2019年 / 66分
アルナチャール人類博覧会 監督=金子遊 / 2020年 / 20分

- ① 香港クライシス 3月20日11:00～/3月26日13:40～
- 『中大防衛戦』
- 『STAND WITH HK』
- ② 関西スペシャル 3月25日13:40～
- 『南京 引き裂かれた記憶』



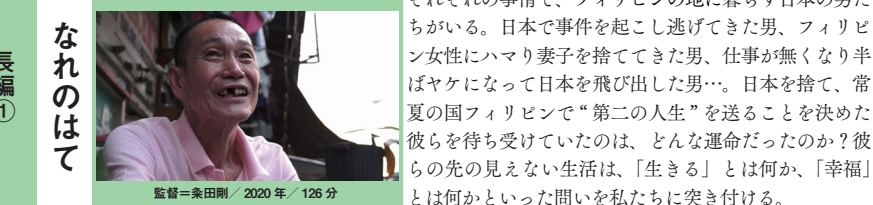
中大防衛戦 監督=カン・シンカイ / 2020年 / 86分
STAND WITH HK 監督=堀潤 / 2020年 / 25分



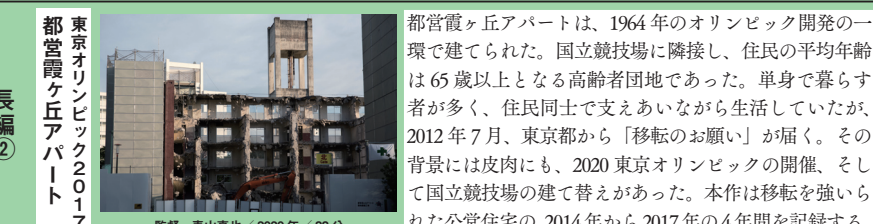
監督=武田倫和 / 2009年 / 85分

特別上映

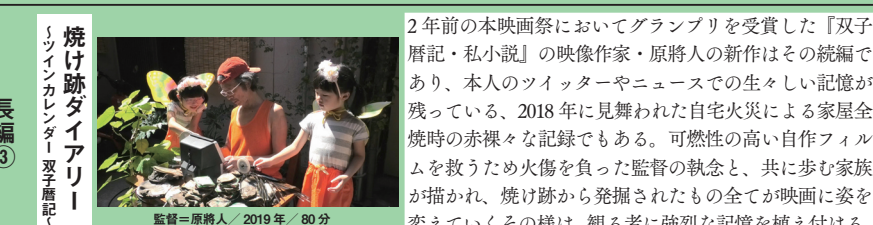
特別②



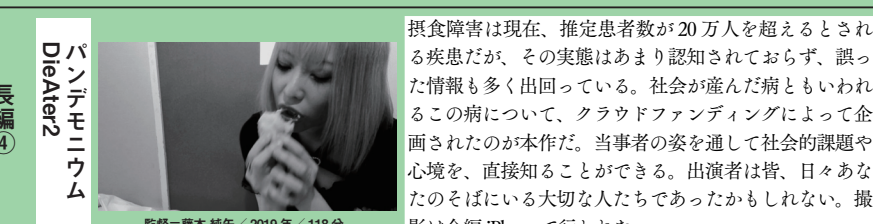
監督=桑田剛 / 2020年 / 126分



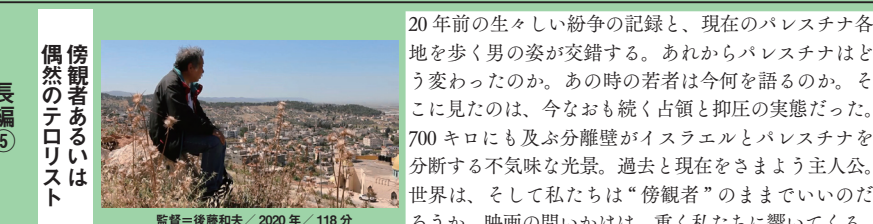
監督=青山真也 / 2020年 / 88分



監督=原将人 / 2019年 / 80分



監督=藤本 純矢 / 2019年 / 118分



監督=後藤和夫 / 2020年 / 118分

長編①

長編②

長編③

長編④

長編⑤

それぞれの事情で、フィリピンの地に暮らす日本の男たちがいる。日本で事件を起こし逃げしてきた男、フィリピン女性にハマり妻を捨ててきた男、仕事が無く半ばヤケになって日本を飛び出した男…。日本を捨て、常夏の国フィリピンで“第二の人生”を送ることを決めた彼らを待ち受けていたのは、どんな運命だったのか？彼らの先の見えない生活は、「生きる」とは何か、「幸福」とは何かといった問いを私たちに突き付ける。

都営霞ヶ丘アパートは、1964年のオリンピック開発の一環で建てられた。国立競技場に隣接し、住民の平均年齢は65歳以上となる高齢者団地であった。単身で暮らす者が多く、住民同士で支えあいながら生活していたが、2012年7月、東京都から「移転のお願い」が届く。その背景には皮肉にも、2020東京オリンピックの開催、そして国立競技場の建て替えがあった。本作は移転を強いられた公営住宅の、2014年から2017年の4年間を記録する。

2年前の本映画祭においてグランプリを受賞した『双子暦記・私小説』の映像作家・原将人の新作はその続編であり、本人のツイッターやニュースでの生々しい記憶が残っている、2018年に見舞われた自宅火災による家屋全焼時の赤裸々な記録でもある。可燃性の高い自作フィルムを救うため火傷を負った監督の執念と、共に歩む家族が描かれ、焼け跡から発掘されたもの全てが映画に姿を変えていくその様は、観る者に強烈な記憶を植え付ける。

摂食障害は現在、推定患者数が20万人を超えるるとされる疾患だが、その実態はあまり認知されておらず、誤った情報も多く出回っている。社会が産んだ病ともいわれるこの病について、クラウドファンディングによって企画されたのが本作だ。当事者の姿を通して社会的課題や心境を、直接知ることができる。出演者は皆、日々あなたのそばにいる大切な人たちであったかもしれない。撮影は全編iPhoneで行われた。

20年前の生々しい紛争の記録と、現在のパレスチナ各地を歩く男の姿が交錯する。あれからパレスチナはどう変わったのか。あの時の若者は今何を語るのか。そこに見たのは、今なお続く占領と抑圧の実態だった。700キロにも及ぶ分離壁がイスラエルとパレスチナを分断する不気味な光景。過去と現在をさまよう主人公。世界は、そして私たちは“傍観者”のままでいいのだろうか。映画の問いかけは、重く私たちに響いてくる。